

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 藻利 衣恵	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究活動】</p> <p>(1) 「文化・慣習・法令が貸借対照表の貸方区分に与える影響—ストック・オプション会計基準を中心に」と題した平成 30 年度高崎経済大学特別研究助成金を獲得した。</p> <p>(2) 昨年度の成果の説明書(5)である佐藤紘光先生・鈴木孝則先生編著の『会計情報のモデル分析 2』の第 5 章「報酬の凸性、会計操作とプロジェクトの継続性 解題」(Laux, V. 2015. Pay Convexity, Earnings Manipulation, and Project Continuation. <i>The Accounting Review</i> 89(6): 2233-2259.) を執筆し、2018 年 5 月に早稲田大学会計研究所原稿報告会で報告がなされた。(出版については、当該研究所で審議中である。)</p> <p>(3) 昨年度の成果の説明書(2)である日本会計史学会スタディグループの『簿記論・会計学講義で語るべき会計史』(学会を挙げての会計史に関する教科書の分担執筆)のうち、「自己株式に関する会計史」と、「ストック・オプションに関する会計史」を執筆し、2018 年 7 月末に、教科書出版のための原稿の加筆・修正を行い、スタディグループに提出した。(その後も、スタディグループの指示に基づき、修正を行っている。)</p> <p>(4) 昨年度の成果の説明書(6)である学位申請予定であった論文集のうちの 1 章「貸借対照表貸方を区分する第三の目的—株式の通貨化とストラクチャリングが区分にもたらす影響」を、2018 年 5 月に現代資本会計研究会(名古屋大学)で、2018 年 8 月に東京大学研究会で修正した上で、2018 年 9 月に日本会計研究学会第 77 回全国大会でそれぞれ報告し、『会計プロGRESS』第 20 号(財務会計の規範・記述研究では日本トップ・ジャーナル)に投稿したが、評価が分かれ、リジェクトされた。そこで、現在は、大雄智先生(横浜国立大学)・川村義則先生(早稲田大学)[・中田有祐先生(國學院大學)]・山田純平先生(明治学院大学)・米山正樹先生(東京大学)(50 音順)からご指導を頂きつつ、来年度の学外誌への投稿へ向けて、加筆・修正を行っている。</p> <p>(5) 昨年度の成果の説明書(4)の研究を、2019 年 8 月開催のアメリカ会計学会年次大会で報告すべく、2018 年 12 月に現代資本会計研究会(名古屋大学)と現代監査理論研究会(関西学院大学)で報告した上で、2019 年 1 月に学会にフルペーパーを提出したが、提出者の研究手法とアメリカ会計学会のカテゴリーとのマッチングが合わなかったため、別の Section への投稿を検討している。</p> <p>※ ただし、本研究の一部には財務会計の先行研究では検討されていない研究テーマが(単著が書けるほど)多く含まれるため、本研究が直ちに査読を通らなかったとしても、中長期的に検討していく予定である。</p> <p>(6) 2019 年 8 月開催のアメリカ会計学会年次大会に投稿された論文のペーパーレビューを担当し、2019 年 8 月 14 日にディスカッサントも担当する。</p> <p>【教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none">● 講義<ul style="list-style-type: none">➤ 財務会計 I・II <p>財務会計 I では、学生が日常的に勉学に励めるよう、毎週課す演習問題を出席カードとして用いる形式を採用した。また、演習問題の内容を改訂した。後期の財務会計 II では、演習問題の内容の改訂とともに、授業評価アンケートの結果をもとに、google classroom を取り入れ、演習問題やレポートに関する提出状況の可視化・提出・添削が</p>	

できるようにした。

➤ 上級簿記

上級簿記では、授業評価アンケートの結果をもとに、毎回の出席カード（演習問題）に対して、模範解答を配布するようにした。

● ゼミ

OB・OGを含めたゼミ名簿を編成した。また、全学年に対して、google classroomを取り入れ、毎週の演習問題に関する提出状況の可視化・提出・添削ができるようにした。

➤ 基礎演習（2年）：今までの経験を踏まえ、スムーズに進んでいる。

➤ 演習 I

- 『企業会計入門—考えて学ぶ』の章末 Discussion の解答例を、現在作成している。
- 昨年度に引き続き、2 グループでグループ研究を行った。その結果、日経インナー大会は予選落ちに終わったものの、その際に高レベルなプレゼンテーション作成・発表能力を獲得し、うち 1 班が 2 度目の経済学部プレゼンテーション大会で準優勝を受賞、また、3 度目の明治学院大学（山田ゼミ）・跡見学園女子大学（山下ゼミ）・國學院大學（中田ゼミ）とのインターゼミでは、うち 1 班が優勝、（もう 1 班が準優勝を獲得し、うち 2 名が個人賞を受賞した。また、本年度は、2 月に早稲田大学商学部大鹿ゼミとのインターゼミも本学で行った。

班	インナー大会	学長杯	インターゼミ
A 班	世界遺産としての富岡製糸場	会計から見る富岡製糸場	会計から見る富岡製糸場
B 班	学生生活充実のためのイノベーション	学生生活充実のためのイノベーション	学生生活充実のためのイノベーション

➤ 演習 II

自由テーマの論文を全員が提出し、2 月卒論発表会・謝恩会を行った。また、卒業論文集は、学内で図書館に所蔵し、ホームページでも掲載した。

● その他

研究・教育関連の知識を深化させるべく、証券アナリスト試験（2 次）を 2018 年 6 月に受験した。

2 その他の事項

- キャンパス環境委員
- 高崎経済大学生生活協同組合 特定監事（大学生協事業連合大学生協教職員交流セミナーへの参加を含む）
- 大学生協事業連合東京ブロック学生委員
- 経済学部 教授会後の懇親会 幹事
- 学生用選書／推薦図書コーナー ほか

3 次年度以降の計画・抱負

【研究活動】

- 本年度の成果の報告書(4)を学外誌に投稿する。
- 本年度の成果の報告書(5)を深化させ、査読が通った場合にはアメリカ会計学会で報告し、通らなかった場合は、研究をより深化させる。
- 本年度の成果の報告書(7)の研究を深化させ、再来年度に向け執筆活動を開始する。

【教育活動】

- google classroom の利用も、より勉強し、講義やゼミに生かす。
- 証券アナリスト試験（2 次）を、2018 年 6 月に再受験予定である。